

6. 評価の実際と個に応じた指導事例

本時において重点的に取り上げた評価規準

場面：2時間目

イ - 新出表現とともに、これまでに既習の知識を積極的に活用し、聞き手が分かりやすいように情報伝達ができる。

* 活動内容

本時で学んだ調理方法を示す表現を用いて自分の好きな料理の作り方を英語で説明する。最初机列のペアごとに相互に発表し検討を加え、その後全員の前で発表する。(聞き手側の生徒は、その内容をヒントとして発表者が何の料理について説明しているのかを推測する。)

評価方法

< 活動の観察 >

- ・ **ペアでの相互発表・検討の段階**(特にこの活動を主とした評価の対象とする。)
相互に自分の好きな料理について、これまでに学んだ英語表現を用いて説明する。それぞれの発表内容について不十分な点を相互に指摘し合い、料理の内容がより具体的で分かりやすくなるように改善を加え、全体の前での発表のリハーサルとしてこの活動を行う。
- ・ **自分の好きな料理の調理方法について全員の前で発表する。**
ペアで、相互に検討し合った内容を全員の前で発表する。

評価の決定

1. 本時で学んだ調理法を表す動詞を適切に説明の中に組み込み発表することができたか。
2. 発表者が思い描く料理をその説明から聞き手が類推することができると思われるか。
3. 聞き手の立場になって分かりやすく説明することができたか。

以上の3点から評価を決定する。

- 評価基準
- A - 上記3点がほぼ満たされている場合。
 - B - 料理の概要はほぼ理解できるが、説明方法等が不十分な場合。
 - C - 説明内容から思い描く料理が推測できないような場合。

個に応じた指導の実際

個の学習状況に応じた手だて

- * 調理方法を示す動詞が理解されていない生徒に対して
 - ・ テキストの図を元に表現に必要な基礎的英単語を確認させた。
- * 調理の手順が英語で的確に表現できない生徒に対して
 - ・ まず調理方法の概略をノートに整理し、それぞれの段階を簡単な表現を用いて表すよう指導していった。
 - ・ 同じ種類の料理を選んだ生徒同士で、それぞれの作品を比較し、相互に学び合う機会を設定した。
- * 調理方法の説明文は完成させることができたが、音声等に難があり聞き手に十分伝わらない生徒に対して
 - ・ 他者の発表を聞き、参考にすることにより声の大きさやイントネーションの重要性を理解させ改善させていくよう指導した。

単元を通した継続的な手だて

本時では調理のような身近な活動について、新出語とこれまでに学んだ表現を組み合わせて自分の思いを聞き手に的確に伝える訓練を行った。それぞれの表現方法を確実に定着させていくために、既習事項を何度も繰り返し反復演習していける場を授業の中に設定したいと考える。

よい話し手となるためには聞き手の側に立ち表現方法を決定していくことが大切である。クラスメートの発表を聞き、相互にそこから学び合う環境を大切にしたい。今回は話者の説明から聞き手側はその料理の名前を当てるゲームを仕組んだが、聞き手の集中力を持続させるためにも、聞いた情報を元にした問題解決の活動を数多く授業の中に取り入れていきたい。

7. 評価から評定への総括

評価

「オーラルコミュニケーション」においては情報を周囲から収集・処理し、その場に必要メッセージを自己表現として発信していける能力を身に付けるとともに、積極的にコミュニケーション活動を展開していく態度の育成を目標としている。よって評定においても、この目標をバランスよく区分した項目により決定していく必要がある。

定期考査においては知識理解、作文的要素の表現力を評価する分野とともにリスニングテストを実施する。基本的な言語に関する知識と、文章を通じたメッセージの発信能力、またリスニングによる情報の吸収能力を評価することになる。

一方毎時の授業においては「授業中の活動」、「スキット」、「スピーチ」など実際の実技面を主な評価材料とし、またそれに至るための準備段階としてのスピーチ原稿などを「レポート提出」として評価材料に組み入れる。

こうした観点から「定期考査」、「授業評価」の役割を分割し、総合的なコミュニケーション能力評価から評定を算出するものとし、年度初めの授業開始時において生徒全員に算出方法を公表することにより、学習目標を明確にして授業を展開していかなければならない。

評価方法

一斉	定期考査	年4回
授業時	授業中の活動	
	単元テスト	
	面接テスト	
	スキット発表	
	スピーチ発表	
	レポート提出	

オーラルコミュニケーションにおけるウエイトバランス表

	配分	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力		理解の能力		言語や文化についての知識・理解
			S	W	L	R	
定期考査	40%			10%	13%	5%	12%
授業中の活動	10%	5%	5%				
単元テスト	10%			3%	3%	2%	2%
面接テスト	10%	3%	5%		2%		
スキット発表	15%	5%	5%	2%			3%
スピーチ発表	10%	3%	5%	2%			
レポート提出	5%			3%			2%
	100%	16%	20%	20%	18%	7%	19%

評価材料について

・定期考査（40%）

定期考査には言語についての知識理解のみではなくリスニングテストのウエイトを高くし、情報の吸収と発信の両面を含めた総合的な英語活用能力の評価として評定に組み入れる。

・授業中の活動（活動の観察）（10%）

「スキット発表」、「スピーチ発表」に至るまでの過程や、通常の授業でコミュニケーション活動に参加する積極性や意欲を含め、実技面での平常点としての要素を「授業への貢献」として評価し評定へ組み入れる。

- ・単元テスト（１０％）
毎時の授業の初めに実施する前時の確認・復習プリントを評価する。基礎固めとして毎時間の授業内容を確実に定着させていくために重要な意味を持つ。
- ・面接テスト（１０％）
１対１で英語による面接を行いコミュニケーション能力を評価する。あらかじめいくつかのテーマを与え、その一部が面接テストとして出題されるといった形式で行う。面接テストそのものとともに、それに至るまでの過程を大切に、指導に役立てていきたい。自己の課題を知り、毎回改善していくための材料にもなる。
- ・スキット発表（１５％）
ペア・ワークとしてのスキット作成・発表、４名のグループでのスキット作成・発表によりコミュニケーションの「発信」という側面から評価し、評価に加える。
- ・スピーチ発表（１０％）
"My hobby", "My hometown" といった自分にとっての身近な紹介スピーチや Show and Tell などの英語による発信活動としてのスピーチから、相互コミュニケーションとしてのディスカッションやディベートへと発展させていきたい。こうした成長の過程を連続して評価し評価への材料とする。
- ・レポート提出（５％）
活字を通してのコミュニケーション活動として簡単な英作文によるメッセージの発信に対する評価、また上記スキット・スピーチ作成、発表の途中過程を継続的にレポートとして評価していき、評価の材料とする。

English Class Self-evaluation Sheet

Class 1 - _____ Number _____ Name _____

How many times did you try to show your ideas in class?

times

Attitude toward the class

very active ()	rather active ()	not so active ()	very silent ()
---------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------

Did you prepare for the class?

- A Yes, I read the text, checked the new words, and arranged neatly on my notebook.
- B Yes, I read the story, and checked the new words.
- C I read the story, but that's all.
- D I didn't prepare anything at all for the class.

Are you happy with the class?

- A Yes, I am very happy with the class.
- B Yes, I am so-so happy with the class.
- C Not so much.
- D I am totally unhappy with the class.

Any comments about the class or messages to the teacher

--